

占部用水

占部日良麻呂（ひらまろ）が866（貞観8）年に三河権守（ごんのかみ）となり、正名に住居を構えて、羽角山に別荘を建てたと言われている。荒涼たる原野を見て開墾を決意し、多くの農民を使って開墾した。国正、中村、定国および正名は、占部日良麻呂の名をとって占部と呼んだ。現在、占部日良麻呂は定国にある素戔鳴（すさのお）神社に祀られている。開墾された田は「天水田」で雨水を頼りにする他はなく、日照りが数十日にも及ぶときは、農作物はすべて枯死して被害を受け、村民の苦しみが長く続いた。

中でも1597（慶長2）年の日照りは厳しく、村人はその日の食べ物にも事欠く有様で、田畑を捨てて村をでる人が続出した。これに心を痛めた正名の野本新十郎と中村の渡辺弥蔵が奮い立って、1598（慶長3）年から水路を開削し乙川の水を引こうと考えた。2人は武門に生まれ、祖先は源頼光に仕えた地方の名望家であった。乙川と矢作川の合流する天白より占部までは8kmあり、莫大な経費がかかった。そのため、用水の工事には村人の反対が続いたが、2人は代々受け継いできた田や宅地をすべて売り払い、5年の歳月を費やし、1603（慶長8）年に完成した。

しかし、そのために2人の家族は離ればなれになり、家名も途絶えてしまった。橋の上に立って思案に暮れる2人を見て、村の人々はこの橋を誰ということはなく、「思案橋」と呼ぶようになった。その後、村々は2人の功績に感謝し占部川神社を設立し、毎年6月16日に正名の永応寺では、「水恩忌」としてお祭りが行われている。占部用水はこの地域で作られた初めての農業用水であり、愛知県でも2番目に古い農業用水である。

その後、1883（明治16）年に愛知県知事の指示で占部用水の改修がされ、2人の献身的な偉業を後世に伝えるため、1885（明治18）年9月に碑が建立された。当時は占部川の思案橋の袂にあったが、1952（昭和27）年に占部川神社に移転された。



占部用水天白樋門 大正10年



占部用水天白樋門工事 大正10年



占部用水天白樋門 大正10年



占部用水幹線水路 大正10年



占部用水分水口 大正10年



占部用水記念碑 大正10年



乙川取水口 20150725



取水口 20150725



上和田 20150725



法性寺 20150725



牧御堂 20150725



野畑 20150725



占部川合流 20150725



思索橋 20150725



廣田川合流 20150725



占部用水記念碑 占部川神社 20150725

本項は以下の資料を引用している。

[六ッ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 高須 亮平
発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社

[わたしたちのふるさと 六ッ南114選]

監修者 総代会長 平井 良美
社教委員長 近藤 武美
著者 岡崎市立六ッ美南部小学校6年児童114名
（平成25年3月19日卒業）
編者 岡崎市立六ッ美南部小学校6年担任
権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
発行日 2013（平成25）年3月1日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社
製本 ブラザー印刷株式会社
発行 岡崎市立六ッ美南部小学校

[岡崎の歴史物語]

著者： 岩月 栄治
編集： 岡崎の歴史物語編集委員会
発行日：1975（昭和50）年3月1日
印刷所：研文印刷社

[岡崎の歴史]

著者： 岩月 栄治
編集： 岡崎の歴史編集委員会
発行日：1976（昭和51）年3月31日
印刷所：研文印刷社

「占部日良磨、占部用水」（P119）の記述がある。

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者： 渋谷 環
発行者：渋谷 環
発行日：2005（平成17）年9月19日
印刷所：ブラザー印刷（株）

安藤川（P39）、広田川（P39、P159）、占部用水（P45）、高橋用水（P45）、
耕地整理（碑文訓読 P64）、悠紀齋田（P129）、菜種栽培（P155）、
各種記念碑（P174）の記述がある。

